



はらじゅくかわら版

独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センターの理念

私たちは、患者さまの人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者様中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者様がより良い医療が受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



謹賀新年

横浜医療センター正面入口

第35号 目次

院長の言葉	1
年男・年女	2
地域医療連携	3
病診連携施設紹介	
行事紹介	3
第5回公開医療講座の開催について	
大正連合フェスタ～ふれあいまつり～に参加しました	4
楓葉祭（学校祭）について	5
看護学生の「薬局見学演習」を受け入れて	6
医師の人事異動	6
外来担当医表/編集後記	7



発行 月：平成24年1月
 発行 行：独立行政法人国立病院機構
 横浜医療センター 広報委員会
 発行責任者：工藤 一大
 住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
 電 話：045-851-2621
 FAX : 045-851-3902
 URL : <http://www.hosp.go.jp/~yokoham/>



当院携帯サイトはこちらから

院長の言葉

- 新年あけましておめでとうございます。 -



院長 工藤 一大

昨年12月に入り急に寒さが増してまいりました。マイコプラズマ肺炎が流行しており、また今年もインフルエンザの流行が懸念されます。健康管理には十分にご留意いただき、ワクチン接種を含め十分対策をとっていただきたいと思います。横浜市では市と地域中核病院を中心にして未知の新型インフルエンザ対策も進めているところです。

2011年を振り返ってみますと、3月11日東日本大震災が発生しました。幸い当医療センターは2010年4月に新築し免震構造となっており被害はほとんどありませんでしたが、7回もの計画停電を経験し、職員の最大限の協力を得て診療への影響は最小限に抑えられたと思っておりますが、ご迷惑をおかけした患者の皆様にはご協力に感謝いたします。この経験を活かし、今後診療に影響が及ばないように院内の電気系統を見直し、工事を行いました。今回の大震災を経験し、災害対策をもう一度すべて見直し、組み立てる必要性を感じております。

節電にも努めており、4月から行っております照明の間引きやエレベータの一部休止などの節電対策の効果は数字でも表れており、この冬も引き続き節電に努めております。

大震災以後、国立病院機構、横浜市からの要請を受け、当医療センターからは医師、看護師、事務、放射線技師を7回にわたり被災現地へ派遣してきました。福島県内では現在も放射線被害を避けるため避難されている方々の一時帰宅が行われていますが、国立病院機構ではその後も一時帰宅者のための医療支援を継続しており、当院からも医師、看護師、事務員などを派遣し、医療支援に協力してきております。院内募集には複数の職員が応募してくれ、感謝・感激いたしました。

当医療センターは平成22年4月から横浜市南西部地域中核病院に認定され、救急救命センター、NICU・GCU、地域周産期母子センターの本格的に稼働してきました。昨年はさらにSCU増床、CCU6床の新設を行いました。これらの機能を含め病院全体の機能向上のため、そしてより一層の医療の質、安全の向上を目指して行く所存です。医師、看護師はもとよりそれ以外の職種における人手不足もまた深刻な問題ですが、今年はこれらの充実を実現していきたいと考えております。全職員数も増加し大きな組織となりますので、職員間のコミュニケーション改善を図っていきたいと考えております。

当院の理念であります「患者中心の医療」、「地域完結型医療」、「地域で選ばれる病院」をこれまで目指して努力してまいりましたが、これからも一層努力し、地域の関係医療機関や行政とも密に連携して「医療の質と安全」の向上に積極的に取り組んでまいります。今後も当医療センターへのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

年 男 ・ 年 女



東4産科病棟 助産師
松村 美友紀

夢だった助産師となり今年で二年目となります。昨年は災害による不安を抱える中、新しい環境で緊張の日々が続きましたが、家族と友人はじめ、周囲のスタッフや患者さんに支えられながら笑顔で過ごすことができました。多くの出産に立ち会い、力強い命に触れるたびに助産師であることの誇りと責任を感じています。産科では、助産師一同一人ひとりの患者さんへ目を向け、赤ちゃんとの新しい生活を支援させていただいています。今年もスタッフ間のチームワークを大切に、助産師として学ぶ姿勢をもって患者さんと向き合っていきたいと思います。プライベートでも健康に気をつけ、一つ一つの出会いや繋がりを大切に、日々笑顔で過ごせる一年にしたいと思います。



東7病棟 副看護師長
七尾 一枝

明けましておめでとうございます。看護師になって何回目かの年女を迎えました。新病院も4月には3年目を迎えます。ハード面が充実した今、より質が問われていることを日々感じています。消化器センターで主に癌の外科的手術や終末期の患者さんの看護に携わり、専門的知識・技術の向上のために自己研鑽し、患者さんが安心して生活の場へ戻るための退院支援をこれまで以上に努力していこうと考えています。

私自身は健康には自信がありますが、年々感じる体力の衰えをくい止めるべく水泳を始めて体力作りから体調管理をして頑張りたいと思っています。



東3病棟 看護師
媚山 広司

あけましておめでとうございます。私は昨年、救命救急士の専門学校を卒業し、かねてより憧れていた救命救急センターで看護師として働いています。救急医療は自分が想像していたより遥かに大変な世界で、毎日先輩方の指導を受けながら何とか仕事をしています。

今年は36歳、いつまでも先輩方の指導を受けている訳にはいきません。自らが成長できるよう自覚を持って日々努力していきたいと思います。そして、次に年男になる際には、今年の自分がすぐに思い出せるような、実りある一年にしたいと考えています。



医療リハビリカー
高瀬 昌浩

昨年は、日本を揺るがした東日本大震災があり日本の絆が問われた一年でした。被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げます。本年は、日本にとって「新たな一歩」を踏み出す一年になりますが、日本にとって良い一年になるように強く信じております。

さて、私、早いもので3回目の年男を迎える事になりました。2回目の時は、まだ24歳！若かったなあ...なんて思いますが、年齢だけでなく人間も成長できたのかなあ?って思います。4回目の年男を迎える時に、自分はどれだけ成長できているか、まだまだ人間としての「ノビ」はあると信じ、私も「新たな一歩」を踏み出します。

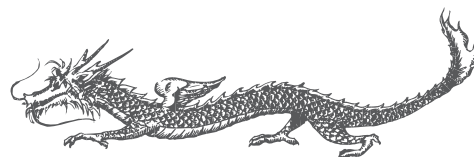
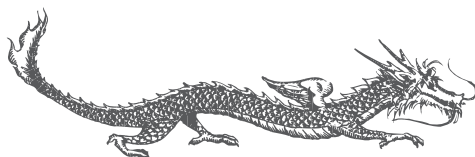


企画課・業務班 外来係
飯田 雅俊

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、東日本大震災や計画停電など社会全体や当院にとっても大変な年でしたが、個人的には、1ヵ月半に及ぶ財務省主催の会計研修に参加させていただくなど充実した1年となりました。

今年は、当院で初めての試みとなる事務部門の職員アンケートが行われます。厳しいご指摘をいただくこともあろうかと思いますが、その結果を真摯に受け止め、患者さんや職員のニーズに応えられるよう精一杯努力して更なる飛躍の1年にしたいと考えておりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



地域医療連携

病診連携施設紹介 小林内科クリニック

診療科目：内科・循環器科・消化器科・呼吸器科

平成3年12月に泉区中田町に内科診療所として開業しました。ですから開業してちょうど20年になりますが、その間に当院の前の長後街道が4車線に拡幅され、地下鉄は戸塚から湘南台まで延伸され、町並みもだいぶ変わりました。

私の診療所は7年前から横浜市大病院の研修医を地域医療研修施設として受け入れています。地域住民が望む医師に育ててもらうために、その中で内科診療所の外来診療、在宅医療を経験し、病診（病院、診療所）連携の大切さを学んでもらっています。

横浜医療センターには、各科診療、検査依頼、救急対応で大変お世話になっています。最近救急科ができて、私の診ていた患者さんでも、急変時には救急搬送されることがありますが、治療を受けて軽快し、大変頼りにしている患者さんが多数います。これからも更に洗練されたより良い病診連携になるように願っています。



左から4人目が小林院長



小林内科クリニック

〒245 - 0014 横浜市泉区中田南 2 - 2 - 2
TEL : 045 - 801 - 2551

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ~ 12:00				/			
午後 3:00 ~ 6:00				/		/	/

休診日 木曜 土曜午後 日曜午後 祭日
日曜日は第1週・第3週のみ午前診療となります

行事紹介

第5回公開医療講座の開催について

地域中核連携係長 濱井 俊充

平成23年12月16日(金)横浜医療センター2階大会議室において、第5回公開医療講座を開催しました。今回のテーマは「腰痛について」。整形外科部長の日塔医師を講師に、55名の方にご参加いただきました。

次回、第6回公開医療講座は2月8日(水)14時から戸塚公会堂において開催します。テーマは「スギ花粉症について」。耳鼻咽喉科部長の佐々木医師を講師として、花粉症の症状と原因、花粉症の治療方法について講演いたします。



大正連合フェスタ～ふれあいまつり～に参加しました

西5病棟 副看護師長 長嶋 美里

平成23年12月4日(日)に富士山がくっきり見える晴天の中、大正小学校で開催された大正連合フェスタに参加しました。大正連合町内会自治会・大正地区社会福祉協議会が主催されており、多くの協力団体の参加があり、大変な盛り上がりでした。

横浜医療センターは第4校舎の2階をお借りし、血圧測定、体脂肪測定後に健康相談を行いました。TANITAの体組成計を用いて体脂肪率、内臓脂肪レベル、体内年齢を測定しました。大正地区の皆さんはとてもお元気で、多くの方が実年齢より若い体内年齢の結果が出て、にこにこしてお帰りになられました。その中でも内臓脂肪レベルが「過剰」で、「運動不足型」と判定された方が数名いらっしゃいました。残念ながらこの内臓脂肪は生活習慣病と関係しており、内臓脂肪の増加は、糖尿病、血栓症、動脈硬化・高血圧症の促進につながります。

内臓脂肪を減らす食事は・・・??

ジュースや炭酸飲料を減らそう

お菓子、スナック菓子、菓子パンなどを減らそう

生成された炭水化物(白米、麺、白パン)などは食べすぎないように

アルコールはほどほどに

肉よりも魚を選ぼう

カロリーオーバーに気をつけて

内臓脂肪を燃やすには・・・??

脂肪を燃焼させる有酸素運動が内臓脂肪を減らします。よく有酸素運動は運動の持続時間が20～30分以上ないと脂肪の燃焼が起きないとされています。この解釈は20～30分以上の持続時間があれば確実という意味です。これより短い持続時間では脂肪燃焼が起きないというわけではありません。一番大切なのは総有酸素運動時間です。30分を1回よりも10分を5回の方が総運動時間は長くなります。

内臓脂肪を減らすために、誰でもできる有酸素運動、“歩くこと”を、おすすめします。



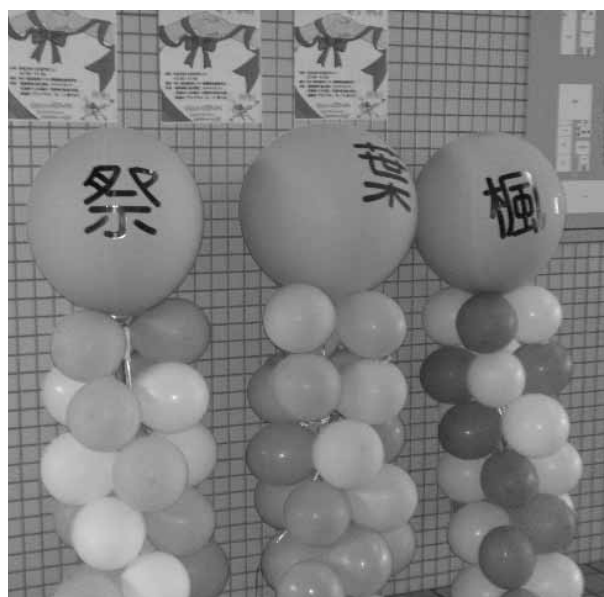
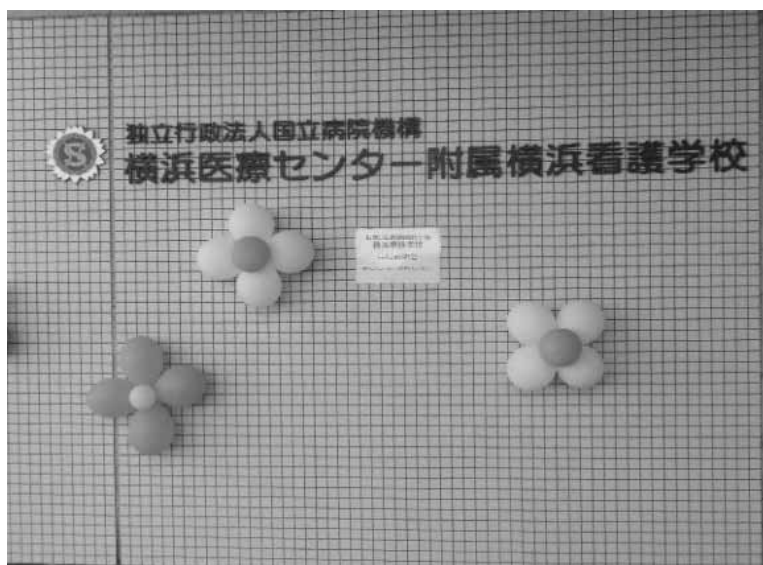
楓葉祭（学校祭）について

看護学校 教育主事 梶原 順子

平成23年10月29日(土)に第47回楓葉祭が行われました。平成23年3月11日の東日本大震災は心に残る大災害であり、その映像がテレビで映るたびに心が痛みました。しかし、その一方で、人と人同士の助け合いや支えあいといった強い絆をみてとることができました。大災害を教訓に、学生たちも楓葉祭を通じて絆を深めていきたいと考え、今回は「絆結(ばんゆう)」をテーマに学生たちが企画運営しました。「絆結」は造語ですが、人と人の絆を深めていきたいという学生たちの願いが込められていました。

学習内容の展示では、1年生が看護の歴史、2年生が様々な母性看護を発表しました。3年生は看護技術を皆様に見ていただき体験できるようにしました。また、災害グッズの展示や災害時の非常食の試食など、災害について一緒に考えられるコーナーを設置しました。その他、模擬店販売を行い、学生たちはお互いに声をかけあいながら、協力して実施しました。

当日は多くの皆様にもご参加いただき、ありがとうございました。地域の皆様との触れあいを大切に、学生をひとりの人間として、ひとりの看護師として大きく育てていきます。どうぞ、今後ともご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。



看護学生の「薬局見学演習」を受け入れて

副薬剤科長：藤本 和利

12月5日、薬剤科初の試みとして、看護学生の「薬局見学演習」を受け入れました。これは、当院附属看護学校1年生の必須カリキュラムである「診療に伴う技術」の講義の一部として行ったものです。

目的は、薬剤科の見学を通して机上では得られない薬に関する様々なことを知ることです。当院附属の看護学校は1学年80名の定員であるため、当日は、効率性を考慮して各20名ずつの4グループに分けて見学してもらいました。



薬といえば、錠剤や粉薬や軟膏、点眼薬などがまず頭に浮かぶのではないでしょう

か。学生自身も今迄に服用したり、塗ったり、さしたりといった経験はあったでしょう。しかし、今回は、1年生ということもあり、日頃あまり触れることのなかった注射薬に絞って、その性状、包装容器の形状、配合による化学的变化、取扱い上の注意点等について説明し、また、それだけではなく実際に見て触って確認してもらいました。さらに、経口摂取が困難な患者さんのために実施される「高カロリー輸液」調製用の無菌調製室や、がん患者さんの治療に投与される「抗がん剤」調製室、適切な温度管理が行える薬用保冷庫内の要冷薬の保管状況なども見学してもらいました。

薬剤科では、現在、薬学生の長期実務実習の受け入れを行っています。看護学生に対しては、薬理学の講義を通して1年生には接していましたが、講義室を離れての今回の見学演習は、日頃の講義と違ってどの学生も興味津津、といった印象を持ちました。取り扱う薬の種類の多さに驚き、整理整頓された清潔感ある環境に感心したようです。特に、薬による事故を防止するための様々な工夫を行っている点について、その重要性が多少なりとも理解されたようでした。

当日は熱心にメモをとる学生も多くみられ、見学実習後の学生レポートを拝見しても、こちらが考えていた以上に学生に好評であったことが確認できました。

我々もこのような機会を利用して医薬品安全管理の大切さを伝えていくことの必要性を強く感じました。

今後は、さらに見学内容の充実を図り、このことが、彼らの将来の職場において役立ってくれることを期待します。

医師の人事異動

発令年月日	発令	職名	氏名	発令年月日	発令	職名	氏名
24.1.1	採用	泌尿器科医師	津村 秀康	23.12.31	退職	麻酔科部長	小出 康弘
24.1.1	採用	脳神経外科医師	田中 悠介	23.12.31	退職	脳神経外科医師	伊藤 圭佑

編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年は「辰年」。昇り龍にあやかって運気を上昇させたいものです。昨年は本当に大きな事件の多かった年でした。今年こそ皆様にとって良い年になりますよう、心からお祈り申し上げます。



診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考	
外来受付 A	小児科	鍋木 陽一 河合 駿 舘持 孝博	菅井 和子 本井 弘尚 檜佐 香織	菅井 和子 矢竹 暎子 神垣 佑	鍋木 陽一 山澤 隆二 村田 宗紀	福山 綾子 小林 慈典 平田 理智	
	心臓血管外科 形成外科	盆子原 幸宏	手術日 村下 一晃	東館 雅文 手術日	鈴木 剛 村下 一晃	東館 雅文 村下 一晃	木曜日は予約患者のみ(新患受付無し)
	整形外科	国府 秀俊 杉元 紳太郎 藤巻 洋	日塔 寛昇 橋本 政敏 国府 秀俊	藤巻 洋 門脇 純弘	橋本 政敏 林 陸	杉元 紳太郎 門脇 純弘 林 陸	※予約患者のみ。
外来受付 B	総合内科外来	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	
	糖尿病内分泌内科	日比 朝子 高木 佐知子	高木 佐知子	宇治原 誠	宇治原 誠	五百川 仁見	■: 午後の予約のみ
	神経内科	中村 治子	菅原 恵梨子	上木 英人	遠藤 雅直	高橋 竜哉	
	腎臓内科	松下 啓	岡田 瑠奈	涌井 広道	松下 啓		
	呼吸器内科	塩原 康正	検査日	山川 泰	検査日	榎原 基史 ■山根 章(肺結核)	▲: 紹介状持参の方のみ ■: 午後の予約のみ
	消化器内科	▲交代医師 (初診のみ)	塩賀 太郎(初診) 鈴木 大輔 ■小松 達司	小松 達司(初診) 松島 昭三	松島 昭三(初診) 野登 はるか ■小松 達司	交代医師(初診) 小松 達司	
	循環器内科	内田 吉枝 初診: 交代(*)	岩出 和徳 網代 洋一(午前) 初診: 田中 直秀	田中 直秀 初診: 岩出 和徳	岩出 和徳 初診: 岩出 和徳	岩出 和徳 ■宮城 瑠美子	《循環器科新患当番医》*(月)第1・2[田中]・第3・4・5[岩出]
	リウマチ科	曾我 隆義	宮城 瑠美子	検査日	曾我 隆義	■宮城 瑠美子	
	外科	清水 哲也 後藤 晃紀 堀井 伸利	関戸 仁 松田 悟郎 森 康一	松田 悟郎 嶋田 和博 行田 悠	関戸 仁 松田 悟郎 清水 哲也 嶋田 和博	急患のみ (交代医師)	
	呼吸器外科		石川 善啓 正津 晶子		正津 晶子 石川 善啓	坂本 和裕 正津 晶子	ご紹介については外来日以外でも随時受け付けておりますので、 直接ご連絡ください。
脳神経外科	急患のみ (手術日)	▲ 交代医師	● 交代医師 ※(脳ドック) 向原 茂雄	急患のみ (手術日)		▲: 第1・3・5週(火)岡田 富 第2・4週(火)宮原 宏輔 ●: 第1・3・5週(水)郭 樟吾 第2・4週(水)谷野 慎 ※脳ドックの詳細はPM2:00~5:00の間に 「医事 脳ドック受付」までお問い合わせください	
外来受付 C	耳鼻咽喉科	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸 手術日	
	眼科	清水 康平 木村 正彦 ■ 兼 桂子	清水 康平 木村 正彦 手術日 ■ 兼 桂子	清水 康平 木村 正彦 ■ 兼 桂子	清水 康平 木村 正彦 ■ 兼 桂子	木村 正彦 ■ 兼 桂子	
	泌尿器科	本田 直康 津村秀康	本田 直康 奥野 紀彦	手術日	奥野 紀彦 津村秀康	本田 直康 笹本 治子	
	皮膚科	齊藤 典充 片山 智恵子	齊藤 典充 片山 智恵子	齊藤 典充 手術日	齊藤 典充 片山 智恵子	齊藤 典充 片山 智恵子	水曜日午後は手術の為、入院患者の依頼はお断りしています 至急診察が必要な場合は、電話をお願いします。
外来受付 D	心療内科	心理検査	心理検査	心理検査	心理検査	心理検査	初診は一般・小児心身症のみ。要紹介状。1日1人まで。
	精神科	森田 睦郎	武川 吉和	安藤 豪	山口 和己	武川 吉和	※月～金: 初診の方は10時までに受付を済ませて下さい。(要紹介状、1日2名の予約制) 初診は左記の再診担当医以外の医師が診察します。詳細は精神科外来にお尋ねください。
	産婦人科 産科	向田 一憲 窪田 与志	小笠原 良治 長谷川 瑛	窪田 与志 後藤 美緒	兼杉 輝彦 高木 偉博	中村 秋彦 向田 一憲	
	歯科口腔外科	塩入 重彰 (再診のみ)	塩入 重彰 赤津 千絵 (午前初診・午後再診)	入院手術日	塩入 重彰 赤津 千絵 (午前初診・午後再診)	塩入 重彰 赤津 千絵 (再診のみ)	初診は、火・木曜日8:30~11:00。初診急患は随時受付(紹介状から直接連絡ください)。再診は完全予約制。再診急患は電話をお願いします。 初診: 可能な限り、紹介状又は診療情報提供書を持参して下さい 詳細については歯科口腔外科部長にお問い合わせください。
専門外来 (他の医療機関からの予約制)	小児科	アレルギー検査 シナシス(10~3月) (交代制)	感染免疫・アレルギー フォローアップ外来 (舘持/平田)	アレルギー(菅井) アレルギー(村田/鍋木)	フォローアップ外来 1カ月健診 (交代医師)	予防接種(交代制) 13:30~14:30 神経外来 (本井)	※第1, 3, 5週 山澤 第2, 4週 檜佐
	整形外科	アレルギー(菅井)	アレルギー(鍋木)				
	神経内科		スポーツ整形外科(国府)				毎週15:00~16:00 地域連携室を通して完全予約制
	糖尿病内分泌内科	糖尿病連携バス外来					
	腎臓内科			腹膜透析外来			
	看護部			糖尿病看護ケア外来 糖尿病フットケア外来	糖尿病看護ケア外来 糖尿病フットケア外来		
	麻酔科	ペイン・緩和外来		ペイン・緩和外来	ペイン・緩和外来	ペイン・緩和外来	地域連携室を通して完全予約制
	外科			スキンケア外来(※)	乳がん検診 補聴器外来(午後)		
	耳鼻咽喉科			ヘアスモカ外来	睡眠時無呼吸 症候群外来		
	循環器科						
	精神科		物忘れ外来				初診には紹介状が必要。1日2名の予約制。
	産婦人科	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	(※)午後のみ。夫立会教室は第2, 4週土曜日、第3週日曜日。
放射線科	小田切 一将 注①	菅川 由美子 注②	注①			※注① 9:00~11:00 ※注② 13:30~15:30	

初診受付: 平日 8:30~10:00
再診(予約外)受付: 平日 8:30~10:00
休診日: 土曜・日曜日・祝日・12月29日~1月3日
地域医療連携室(脳ドック受付)(TEL 045-853-2331)

急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)
紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。
地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月~金 8:30~17:00)
TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)
FAX 045-853-8356

お知らせ 色つき部分が変わ箇所となります。ご確認の上受診ください。

(写真右)

戸塚は江戸時代には東海道の宿場として栄えており、旅籠の数も小田原に次ぐ所で江戸より10里、小田原まで10里と中間点にあるため、江戸を朝立ちして戸塚で泊まり翌朝小田原に向かって出発するので大変賑わった町でした。

又、現在の戸塚消防署とスルガ銀行戸塚支店の間は大商店が立ち並び、旅籠や遊廓等が点在していました。

